

研修医新聞 5月

東京大学医学部附属病院 研修医 多田真弓



平成 27 年 5 月 28 日 第 55 号

はじめまして、東京の外へ

生まれも育ちも東京都の私が、地域研修の行先として三重県を研修先に選んだのは、もちろん紀南病院に良い評判を聞いていたということもありましたが、たった一か月の研修ならなるべく遠く知らない場所に行ってみたいという興味と冒険心が大きかったように思います。私の知らない何か三重にはあるのではないか、新しい何かを学べるのではないか。その漠然とした期待は、着任 1 日目に見たドクヘリ搬送で確信に変わりました。ヘリポートじゃなくて野原に着陸するの！？ ランデブーポイントはハワイ、ってみんな言ってるけどハワイってどこ！？ あっ虹が出てる！？ あっけにとられている私を前に、ドクヘリは飛び立っていきました。隣の M 先生が「よし、これで一人助けたな」とおっしゃったとき、ああこれは大変なところに来たなと思いました。

実際に一か月の研修を終えた後も、その印象は変わりません。優秀でマルチなスタッフの皆さまに支えられて、東京の同規模の病院よりはるかに手広い医療を提供する紀南病院での業務は、分業化された医療に慣れきった私にはときに難しいものでした。幅広い知識、スピード、判断力、そして何より自分が患者の人生を診るんだという責任感。素晴らしい先生方から少しでも多く吸収して、東京に持ち帰らせていただきます。

丸山千枚田、尾呂志、荒坂、神島…

短い期間ではありましたが、色々な場所を訪れました。

各診療所では少ない設備であらゆる疾患を診る難しさを知り、特に神島では島の方と交流する機会もたくさん設けていただきました。

丸山千枚田では人生初の田植えをし、この地域の豊かな伝統と自然に触れました。楽しくてぷすぷす植えていたら、翌日・翌々日ズーっと頭痛がして大変でした。熱中症だったのでしょうか…？ 要注意です、田植え。



最後になりますが、この一か月で関わってくださった皆様、ありがとうございました！ いつかまた来ます

2ヶ月目です

こんにちは！4月から紀南病院で研修させていただいております。ちなみに7月末までおりますので、毎月研修医新聞の原稿を書く予定です。先月は丸山千枚田の畔塗りに参加し、今回は田植えにも参加させていただきました。畔塗りのときと違い、参加者多数で大盛況……屋台まで出ていました……びっくり。天候にも恵まれ、遠くから来られたかたがたには絶好の行楽日和だったのではないかと。帰りは丸山千枚田から紀和診療所の前まで歩いて帰りました。途中にあった小さなお寺さんが、隅々までものすごく綺麗に整備されていて、思わず写真を一枚。



東京大学医学部附属病院
研修医
桐山真美

自動ドアに突っ込む

5月中旬のこと、です。いつもどおり、昼食を食べようと病院2階の食堂に行きました。大学病院にいたときは、行列をつくるのも面倒だし、値段は高いし、院内売店の弁当も昼過ぎには売り切れているし、で、結局はコンビニのパンなどで、かなり適当にすましておりました。こちらの食堂は非常に美味しく、大変助かっております。いつも、ありがとうございます。

ちょっと脱線してしまいましたが、それはさておき、この食堂の

自動ドアのガラスがとっても綺麗に磨かれていた

ため、その日はなぜか全力で自動ドアに頭から突っ込んでしまい、全力で後ろにぶっ倒れました。目撃者のS先生が焦って飛んできましたが、あまりにも恥ずかしかつたのと、おそらく私は打撃系の攻撃に対する耐性が普通の人よりも高い（昔、少林寺拳法部でポコポコにされていました）こともあり、キレッキレの動きで0.5秒（のつもり）の間に立ち上がり、何食わぬ顔をしてその場を立ち去りました（……のつもり）。1週間くらい、なんだかククラしていました。次からは、「前方、ヨシ！」で指差し確認いたします（猛省）。

それでは皆様、来月以降もよろしくお祈りします！

